

地域密着型サービス事業者 自己評価表

認知症対応型共同生活介護事業所、小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホームはなかわ1	評価実施年月日	19.12.11
評価実施構成員氏名	辻、川村、上木、佐藤、押尾		
記録者氏名	上木	記録年月日	19.12.25

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	地域の人と普段から普通に、付き合いが出来るように、地域の食堂だとか、レストランに出向き、月に1度位の食事会等を開催し地域の住民の理解を得ている。		
2 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	管理者と職員はホームの理念を理解し、同意を持って実践に向けて取り組んでいる。		
3 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	地域密着型の会議でも、みなさんとお付き合いについて話したり、地域のレストランとか食堂に日に一度、出掛けて交流をはかり、利用者がその様な生活になれるようにしている。		
2. 地域との支えあい			
4 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	顔見知りでない方にも必ず声をかけ挨拶をしている。隣近所の人も畑で収穫された野菜等を、持って来てくれたりしている。		
5 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	運営推進会議では、町内会長や役員の方達や消防署に参加して頂き、交流を深めている。また、子供みこしだとか、町内の催し物に協力し参加している。		
6 事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	暮らしに役立つ事について話しあうか、取り組むまでには至っていない。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>		
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>		
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>		
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者の意見や不満については投書BOXをもうけるようにしてゆく。役所に直接不満をぶつけてもらっている。その意見を取り入れ、出来ることは、改善している。		
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	それぞれの家族に2か月に1度のホーム便りを送っている。また、来訪の折や電話で利用者の日常の様子を伝えたり、本人の欲しがる物を買ったりしている。		
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ホーム内に苦情箱を設置する。投函しづらい場合は、リンクルへ苦情申し立て下さる様に記載する。		
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	運営に関する職員の意見や提案を聞き改善させている。		
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	利用者様と職員が3人に1人で維持できるように、勤務ローテーションを組んでおり、欠員や補充が必要な場合は、直ちに相談している。		
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	異動してもたまたま利用者様に顔をみせて安心させている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>そのレベルに応じた研修を受けさせている。又、担当看護師と共に職員に感染予防等の実技講義を行ったり、消防署から救急救命の実技講習を実施する予定。</p>	
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>運営者は、常に地域の同業者とあまり交流がないが、管理者、職員は地域で開催される研修会等に参加している。</p>	
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>職場での食事会等でストレスの解消策を取り入れている。</p>	
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>運営者は、すべてを把握している。又、運営者は、職員が利用者様の介護支援の時間をより多くするために、調理、清掃、その他等に気をつけている。</p>	
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会を作り、受け止める努力をしている。</p>	<p>話しやすい雰囲気作りをしながら、良く聴く機会を作り、受け止めている。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会を作り、受け止める努力をしている。</p>	<p>よく聴く機会をつくっている。双方、納得がゆくまで話し合っている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	家族と本人と話し合い、本人にどういう介護が必要なのか、そこで判断している。他のサービスも利用できるかと、したいという要望があれば、他のサービスも含めて利用していただいている。		
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	本人の性格や状況に合わせながら無理なく馴染めるように、スタッフが付いて行ったり、顔馴染みの人が付いて行ったり、無理なく馴染めるように家族とも相談している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	本人が出来ることは、できるだけ見守りながら行ってもらう。本人から教えてもらったことは、大きさに喜んであげる。室内・室外での行事を一緒に楽しんでいる。		
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	本人、家族、職員と共に食事会を行っている。地域運営推進委員会では、屈託のない貴重な意見を述べられる関係を築いている。		
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	毎月ご家族を食事会に招待し、利用者様、ご家族、職員同士のよりよい関係を築いている。		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	通院の際、馴染みの人と会う機会がある本人が、家族と自宅に遊びに行ったり、以前に行っていた馴染みのスーパーへ職員と買い物に行ったりしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	1F、2Fの利用者はの交流を深めながら、トランプ、カラオケ、散歩等で関わり合いに努めている。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	本人にも家族にも、いつまでも話し合いをもって空きがあれば、いつでも入所できるようにしている。家族が介護に協力的な理解の持ち主。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常の会話の中からも利用者様の思いや希望の把握に努めている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人の生活史等を把握するシートを作成し把握に努めている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	1人ひとりの1日の過ごし方、心身状態の変化等、個別に記録し現状の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	介護計画を作成する際は、本人、家族の意見を聞きまた、職員の気づきやアイデアを反映させた介護計画となるようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	身体機能の低下等、状態の変化があった場合は、随時の見直しを行っている。		
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の介護や介護計画に反映させるため1人ひとりの日々の様子や変化を個別記録に記入。朝、夕の申し送りも行い情報を共有している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	本人の体調、本人の様子からどのような支援を行うかを、そのつど決定する。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	必要な利用者には、地域後見人制度を利用している。		
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	本人の希望によって、ディケア、サービスの体制を築けるようになっている。		
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	必要に応じて相談等したり、推進会議等で協働している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	担当看護師に健康の状態を管理してもらっている。健康に異常がある場合は、医師の診察を受けるようにしている。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	担当医による週1回の訪問診療を行っている。状況に応じて専門医を紹介してもらって治療を受けるようにしている。		
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	看護師を確保している。日常の健康管理や相談を受けながら医療活用の支援を行っている。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	医療機関とは早期退院に向けての話し合いを行っているが、本人が改善するまでは医療支援を受けるようにしている。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	入所時の段階から話し合いを勧めているが、重度化した場合や終末期には新たにどのような相談をし、方針を決めている。		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	担当医や看護師と今後病状の変化について説明を受け、どのような支援を行うかを決定している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>別の居宅へ移り住む際には、情報提供者等を作成し情報を提供している。</p>		
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>「利用者様の誇りやプライバシーを損ねる職員には退職もありうる。」という姿勢で、利用者様1人ひとりを尊重したさりげない介助が行われている。また、記録等、個人情報の取り扱いには、十分な配慮を行っている。</p>		
<p>51 利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>職員は、利用者様それぞれの趣味や個性に合わせて何をしたいのか見極めて説明したり、自分で決定させたり、中止させたりして本人が納得出来るような生活を支えている。</p>		
<p>52 日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>ある程度の決まりはあるものの、一日の流れを利用者の行動に合わせて支援している。</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>身だしなみは、常時気をつけています。2カ月に一度の訪問美容があり、利用者様1人ひとりの希望合わせた支援を行っている。</p>		
<p>54 食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>一週間のメニューを見やすい場所に掲示している。今日は、どんなおかずと聞くなどして、食事を楽しみにしている。利用者様に合わせた食後の片付け等を行っている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	健康や食事の妨げにならないように1人ひとりの状況に合わせている。		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排便表を活用し、1人ひとりの排便のパターンを把握している。また、オムツの使用や失敗を減らすために時間を決めトイレ誘導し、失禁の改善に結びついている。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴は週4回としており、利用者様1人ひとりの希望に合わせて、ゆっくり入浴ができるように、時間ゆとりを持った支援をしている。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	1人ひとりの状況に合わせて睡眠薬を使用してもらったり、室外音や室温に配慮しながら安心して休息できるように、夜勤者が常時見守っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	1人ひとりの生活歴や力を活かし食器洗い、縫い物、掃除機、モップ掃除、鉢植えの水やり等、その人の楽しみを分かち合っている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	金銭管理のできる利用者様には、1人ひとりの希望や力量に応じ買い物やお金の管理を支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。</p>	<p>身体上に問題がないかぎり、希望に沿っている。また、外気温の低い日は、ドライブ等し工夫している。</p>		
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。</p>	<p>食事会を含めた散歩等、家族と共に作ったり、個別あるいは他の利用者様とドライブを楽しみながら、海を見に行ったり等行っている。</p>		
63	<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>本人の希望があれば、いつでも本人自ら電話をすることができる、また、手紙のやり取りが出来るように一緒に漢字を調べる等し、支援している。</p>		
64	<p>家族や馴染みの人の訪問支援</p> <p>家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。</p>	<p>職員は湯茶の接待もしているが、自由に飲める様にポットを設置されている。昼食前に来訪の際には、昼食を一緒に召し上げて頂く等、家族が居心地良く過ごせる雰囲気作りをしている。</p>		
(4)安心と安全を支える支援				
65	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>職員全員、正しく理解している。当ホームは、身体拘束は一切行っていないし運営者は、そういう事に非常に厳しい。</p>		
66	<p>鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。</p>	<p>職員全員は、居室や玄関に鍵をかける事の弊害を理解しており、日中に居室、玄関に鍵をかける事は一切行っていない。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>67 利用者の安全確認</p> <p>職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。</p>	<p>利用者様3人に1人と担当を決め、プライバシーに配慮しながら所在や様子を把握している。夜間5回の巡回を実施し、昼夜通して安全に配慮している。</p>		
<p>68 注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。</p>	<p>1人ひとりの状態に応じて危険と判断した場合には、協力をしていただける家族には協力していただきながら危険防止を行っている。</p>		
<p>69 事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。</p>	<p>職員は看護師と共に事故防止についての勉強会を開き、1人ひとりの状態に応じた事故防止に努め、嚙下運動や転倒防止の為の体力維持に取り組んでいる。</p>		
<p>70 急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。</p>	<p>急変や事故発生時の対応マニュアルをいつでも目に見える場所に置き、消防署職員による救命救急士実施訓練を行う予定。</p>		
<p>71 災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。</p>	<p>消防署職員に定期的に、ホームに来てもらい避難訓練の実施指導を行っている。また、災害時には、火災通報装置により職員に自動通報が行くようになっている。</p>		
<p>72 リスク対応に関する家族との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。</p>	<p>入居前に家族に説明し納得してもらうように努めている。入居後も家族同席でケアカンファレンスを行い対応策を話し合っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>	<p>週一回の訪問診療と当ホームの看護師により早期発見に努め職員も速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>	
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>看護師から職員は病状と薬の説明を受け、服薬の支援、症状の確認に努めながら看護師に、様子や状態等を報告している。</p>	
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。</p>	<p>バランスのとれた食事と一人ひとりに合った運動を行ったり、便秘の人には便秘薬を調整している。</p>	
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>	<p>食後には、義歯をはずし口腔ケアの支援をし、イソジンで嗽(うがい)をしている。義歯は、週2回消毒を行っている。</p>	
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>1人ひとり栄養バランスを重視し、食事量をグラフに正確にわかるように記録している。水分量も、必要な量はほぼ確保できている。</p>	
78	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>感染症予防一式を各場所に設置してある。マニュアルを作り、職員の実施訓練を行っている。インフルエンザの予防接種も受けている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>食中毒の予防に布、まな板等は夕食後消毒し、冷蔵庫は週1回消毒し、衛生を保持している。食材は、毎日業者から届き新鮮な食材を使っている。</p>		
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p> <p>(1) 居心地のよい環境づくり</p>				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>玄関前には、プランターに花を植え正面玄関上には、見やすい字でホームの名前を刻んでいる。家庭菜園もあり、家族的な雰囲気作りの工夫に努めている。</p>		
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>共有空間では、日差しはカーテンを利用しCDの音等も不快にならない様に注意している。浴室、トイレ等、いつもきれいな状態で使用できるように努めている。また、季節ごとに、四季を取り入れる工夫している。</p>		
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>居間には、気の合った利用者様同士で過ごせる居場所があり、テラスや事務室に一人で自由に過ごせる場所もある。</p>		
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>居室には使い慣れた家具や仏壇、テレビ等が持ち込まれ、自分の好みの配置にしている。</p>		
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>換気は、強制自動の換気であり、気になる臭いや空気のおよみ等は、常時清潔にし、臭いの発生を止めている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>木造作りで柔らかい弾力性のある作りになっている。主な所には手摺等があり、廊下も広く、生活しやすいように工夫している。</p>	
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>一人ひとりが理解できる範囲内で、自分のできる事を失敗しないように見守り、自分で生活が出来るように支援する。</p>	
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>外回りには花を植えたり、室内には運動器具を置いて楽しんでもらっている。</p>	

. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<p>○ ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんど掴んでいない</p> <p>その時や場面によって、利用者の意向に変化があるものの職員は利用者の真意を把握し、その人らしい穏やかな生活を送っていただく様に努めている。</p>
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<p>○ 毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない</p> <p>自室まで職員が遊びに行き、利用者の話をゆっくり聞いたり、散歩等で季節の移り変わり等を話したり、ゲームや折り紙等を一緒に楽しんでいる。</p>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<p>○ ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない</p> <p>自室で過ごしたり、リビングで過ごしたりと一日居たい場所で過ごしている。また、買い物等や散歩等出来る限り本人の意思にそっている。</p>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<p>○ ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない</p> <p>利用者ができない部分をお手伝いしたり、同じ作業手伝ったりしながら支援している。出来ないことが出来ると生き生きした、とても良い笑顔がみられる。</p>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<p>○ ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない</p> <p>希望場所に行くことが可能であれば、行けるように支援している。利用者によって外に出掛けることを拒否されたり、身体上外出ができない方もいる。</p>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<p>○ ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない</p> <p>毎週一回の担当医の訪問診療のほかに、看護師が健康管理をしている。また、受診や検査が必要な場合は、直ちに協力機関に担当医から連絡が行き、受診及び検査ができるようになっている。</p>
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<p>○ ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない</p> <p>その利用者様に合わせた支援を行っている。利用者様一人ひとりの状況や要望を考慮し、その利用者様に合わせた支援をおこなっている。</p>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<p>○ ほぼ全ての家族 家族の2/3くらい 家族の1/3くらい ほとんどできていない</p> <p>ご家族の同伴でケアカンファレンスを行い、家族の思いを聴いたり、相談にのったりしている。ホームに遊びに来やすい雰囲気作りや、推進会議での意見や思いの交流や食事会を行ったりと信頼関係を築いている。</p>

. サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<p>ほぼ毎日のように ①数日に1回程度 たまに ほとんどない</p> <p>いつ訪ねて来られても良い様に、ホーム内外とも、常に来やすい雰囲気と清掃に心掛けている。</p>
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	<p>大いに増えている ①少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない</p> <p>ホームでの活動や方針を理解していただき、関係者とのつながりや広がりが深まり、少しずつではあるが応援者も増えてきている。</p>
98	職員は、生き生きと働いている	<p>ほぼ全ての職員が ①職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない</p> <p>働く意欲を持ち、目標を達成するための意志を持つ職員もいるが、特色やレベルの差がある。</p>
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<p>ほぼ全ての利用者が ①利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない</p> <p>生きてきた生活歴や性格、病気から時々によって気持の変動や考えが安定せず、思いどおりにならないと満足ができないと思うところも感じられる。</p>
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<p>①ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない</p> <p>家族は自由な時間に来訪し、利用者様の様子や話を聞いたりホームの行事に参加したり、推進員会でホームの方針等について触れたり、話し合いの場を築きながら満足されている。</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点
 等を自由記載) 利用者様の楽しみや健康のために、当ホームでは食事のメニューや味付けも、色々な味が楽しめるように工夫をし、温かい料理はできたてを出し、冷たくしたほうがおいしい料理は冷たくして、見た目や器、食感等も満足できるように召し上がっていただいています。カロリー計算やバランスの良い食事を用意してもおいしくない、見ても食欲がわかない等の理由から食事が食べれず健康を害してしまったら、潜在意識の復活だとか、活性化以前の問題です。十分にバランスの取れた食事で健康を保ち、利用者様の潜在意識や活性化をはかるべきと考えております。利用者様のケアに職員全員が同じ目標を持ち、同じ言葉で接するように取り組んでいる。チームケアを念頭に一人ひとりが責任のある支援に取り組む。